

以て禪林坊に講衆を招集す。

三七七

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

明日午一點於禪林坊
可有御集來矣

白山寺 勸學講所

幸堅大德奉	豪運大德不參
實成大德奉	源運大德奉
承善大德奉	承澄大德奉
幸淳大德奉	祐運大德奉
貞成大德奉	講師

右依恒例所唱如件。

貞和五年九月十二日

勸進 尊 仁番

十二月十八日。山城石清水八幡宮入江匡清、某に、同宮領遠江國向笠郷年貢の替として能美郡能美莊地頭職を讓る。

【菊大路文書】 山城

三七八

石清水八幡宮領、遠江國向笠郷年貢百貫、任故社務御讓

雖可去進、未全知行之間、爲其替以加賀國能美庄地頭職所奉相傳也。仍御寄進狀同副渡之。御一期之後者、彼狀并地頭職、同可被返付門跡者也。若亦當庄有不慮轉變事之時者、可奉去向笠郷年貢。又彼郷全知行之時、任本讓之旨可有知行之由御所望者、被返付能美庄、可去進百貫年貢者也。若互背此旨、有致違亂煩事者、申公方可被處別罪科者也。爲後日契約如件。

(入江匡清ノ)
權少僧都法眼和尚位 在判

貞和五年十二月十八日

十二月十八日。山城石清水八幡宮入江匡清、同宮領能美郡能美莊地頭代職に能美菊若丸を補す。

【菊大路文書】 山城

三七九

(入江匡清ノ)
袖判

下 八幡宮御領

加賀國能美庄地頭代職事

能美菊若丸

右以入補任彼職、一事以上任先例、可令庄務執行之狀

所仰如件者、庄家宜承知、敢勿違失。故下。

貞和五年十二月十八日

(この文書の袖判は前條のものと同じなり。)

正平五年 庚寅

貞和六年 京都

觀應元年 改元

紀元二〇一〇
二月廿七日

二月廿一日。足利基氏、石川郡白山寺長老をして天下靜謐を祈らしむ。

【稱名寺文書】 武藏

三八〇

同前

天下靜謐祈禱事、轉讀般若經三部、殊可被致精誠之狀如件。

貞和六年二月廿一日

(足利基氏)
左馬頭 在判

白山寺長老

三月廿三日。明峰素哲、石川郡大乘寺・鹿島郡永光寺以下の住持職に關する置文を作る。

正平五年・六年(觀應元年・二年)

【永光寺中興雜記】

三八一

兩寺住持職之事 加州大乘 能州洞谷

右彼住持職者、嗣法小師并傳戒小師・受業小師、同心評談而、擇出嗣法小師之中其機用仁、可令住持者也。

此外諸寺事

加州分	能州	觀成寺	仲興寺	能	德德寺	崇禪寺	大會寺
西光寺	加						

越中光禪寺 能州分道興寺 慧恩寺 圓光寺

右彼諸坊主者、嗣法小師并傳戒小師受業小師、同心擇其器用、可令居住者也。子孫固守此旨、可爲永代龜鏡者也。

觀應元庚寅年三月廿三日

前住大乘洞谷紹燈素哲 在判

正平六年 辛卯

觀應二年 京都十一月七日

紀元二〇一一

正月十一日。能登守護桃井義綱、得江石王丸に